

会 議 録

会議名称	令和6年度第1回大空町文化財保護審議会	
開催日時	令和6年7月22日(月)	10時10分から 12時10分まで
開催場所	女満別ゲートボールセンター ITルーム	
出席者の氏名	田中委員、児玉委員、酒井委員、武田委員、岩原委員、佐伯委員 (欠席者3名：山川委員、山田委員、河崎委員) 教育委員会：関谷教育長、村山参事、歌丸主幹、河西主査、松本主事	
傍聴者の数	—	
会議資料の名称	資料1：廃棄する資料の一覧	
審議内容及び結果	<p>○辞令交付</p> <p>○教育長挨拶</p> <p>教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会は、町にある貴重な文化財の保存や活用方法についてご意見をいただき、郷土に対する愛着を深め、町民文化の向上に資することを目的としている。 ・本日は女満別湿生植物群落保全対策の今後や大空町郷土資料の今後の展示・保管方法についてご審議いただくこととしている。忌憚のない意見をいただきたい。 <p>議事内容</p> <p>議案第1号 会長、副会長の互選について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大空町文化財保護条例第20条の規定により、会長・副会長を互選することとなっており、互選について各委員から意見を諮る。 <p>→「事務局案があれば、提示いただきたい」と発言あり。</p>	

事務局案 会長 岩原 繁 氏（大空町郷土歴史・文化保勝会会長）
副会長 児玉康弘 氏（東藻琴地区より）

- ・事務局案どおり可決。

議案第 2 号 大空町郷土資料室の廃棄について

- ・別紙資料を説明。
- ・受け入れ方が問題。同じものが複数ある。わらじなんてたくさんある。
- ・廃棄する資料の寸法は測っているか。
- ・雨もり等の際の保存方法の反省。データとしてあるし、残していける。
- ・以前資料をたくさん見せていただいているが、大空町の資料はほぼデータ化されている。
- ・保存場所を考えていく。女満別研修会館に置いておくとさらに劣化する。
- ・道立なら温度管理もされている。ただお金がかかる。教委で基準を決めて保管の方法を考えていくべきだが、今までも特に基準がなかった。
- ・郷土資料として、文献もある。ガラスケースのままだと、しけってカビが生える。風を通すことや、保管庫に入れる等今後の対策を検討すべき。
- ・原因は施設の雨漏りによるもので、廃棄の検討は教委で行っている。
- ・廃棄するという判断で良い。

議案第 3 号 女満別湿生植物群落保全対策の進捗及び今後の予定について

- ・教育委員会より概要を説明。
- ・教委から補足（町民と学者とのギャップ、観光ではなく保全、手を加えて良いのは所有者）
- ・会長から補足（400年のサイクル、対策の効果がなかなか現れない）
- ・林野庁など関わっており、手を出せない。長くかかっている。議論が複雑化しており難しい。しかし、それで保存されているとも言える。

議案第4号 郷土資料室の今後の展示・保管方法について

・廃棄をするのは難しい。奈良県の植物標本のご廃棄による知事への言及等もあったが、6割の施設が狭く悩んでいる。大空町もどのように廃棄を進めていくか。しかし、同じものが複数あるから捨てるというのはいかなものか。廃棄ではなくて活用してから、それを記録として残す。例えば授業で活用など、ワンステップ置く。教育の授業としてやっても良い。分類わけの表現も「展示せず保管」ではなく「保管」が良い。

・いつ寄贈されたからではなく、そのものがいつ作られたかまでが大事。

・インターネットで調べれば、製造年月日までくらいはわかる。

・鑑定団などもあるが、郷土資料の価値はわからない。大空町はデータで保管してあるため、比較的整理されている部類である。高校校長は熱心。

・古いからいらぬから、でもらうわけではない。町民の想いもある。期を見て廃棄してきた。

・このような方針で展示・保管していくこととする。

・郷土学講座の連続講座の開催や町民へのお知らせの仕方を検討。

その他

・教委より社会教育施設基本構想（素案）の説明

・構想は今年度中に固める、その後基本設計か。

・教委としての考え方を聞かせてほしい。駅に郷土資料持っていけば人件費かかる。廃校や駅舎もたいていそのまま。現実的にどうか。元々の行政職員として、図書館としての分析は甘いのではないかと感じる。合併してからの流れがある。指定管理になって、図書館友の会もなくなった。統計を見て愕然としたが。環境だけではないと思う。教委として関わりも大事なのではないか。防災センターの考え方や今までの保勝会の積み上げた議論も踏まえていただきたい。

・図書館の利用は減っている。駐車場からも遠い。郷土資料室については、学芸員を置いていない。行政としても文化財を本気で考えていく時期に来ている。国としては、地域のマンパワーで教えていくと言っている。補助金次第であるが、空いている施設に郷土資料を追いやるのではなく、きちんと考えていく段階に来ている。防災センターに研修会館の

一部を持っていき、研修会館も小さい規模で良いと山下町長時代に言っていたとのことであるが、自治基本条例により行政が決めるのではなく、町民を聞いて作っていく、合併をしてから純粋に、不特定多数の町民が利用する施設として建設するのは初めてであると思う。

- ・新しい施設を作り、どう利用していくかが課題、施設の統廃合など、早く新しい施設を進めてほしいが、良いものになるように進めてほしい。
- ・エリア分け（ゾーニング）は面白い、元町遺跡や天然記念物、現図書館に郷土資料を置くにしても、狭いなら狭いなりの展示の仕方はある、まずは一歩進めてみる事が大事である。